

令和7年度人生100年時代づくり・地域創生ソフト事業総括

1. 事業の名称

子ども食堂から始まる地域のウェル・ビーイング実現プロジェクト

2. 事業の目的

貧困世帯の子どもに食事を提供する場所という画一的な側面ではなく、子どもとその親だけに限らず、地域の多様な世代が気軽に参加できる子ども食堂を設置する。子ども～子育て世代～高齢者まで多様な世代や属性の方が気軽に参加し、子ども食堂を通じて自然に交流できる地域の居場所としての子ども食堂を展開する。

子どもたちが信頼できる地域の大人たちとつながり、地域の大人も子ども食堂を通じて地域に主体的に参画することで、地域社会全体のウェル・ビーイング環境の実現を目指す。

本プロジェクトを通じて、こども大綱に掲げる「良好な成長環境を確保し、貧困と格差の解消を図り、全てのこども・若者が幸せな状態で成長できるようにする」ことを実現する。

3. 実施方法

①地域の場所としての子ども食堂事業／「居場所」食堂

＜事業目的＞

町内の地区まちづくりセンター等を拠点として、月2回程度の子ども食堂を運営する。参加者は子どもや親世代に限定せず、地域住民やボランティア参加を推奨し、食事は子どもたちを含めて参加者と一緒に作ることで、多様な主体との自然な交流を促す仕組みを構築する。

回数を重ねつつ、孤立を解消し、多様な属性と年代の方の交流の場づくりとの主旨の理解に努め、多様な主体が参加しやすい場づくりについて、参加者や運営側と一緒に構築していく。

＜実施状況＞

各地区まちづくりセンターを拠点として、概ね月に1～2回程度の頻度でこども食堂を運営した。親子だけでなく、地域の多様な世代との「ナナメの関係性」を構築することで、食を通じた地域の交流と居場所づくりの役割を果たすことができた。

②プロジェクトキックオフシンポジウムの開催／食堂「はじめ」

＜事業目的＞

地域の多様な大人と関わり、見守り、支えを受けることで、地域での豊かな関係性を深め、子どもや若者だけでなく、全ての人の地域全体でのウェルビーイングの実現を目指す。

こうした環境を地域全体で実現していく意識の醸成を図るため、キックオフシンポジウムを開催する。基調講演のほか、子育て支援、居場所づくり支援、児童・生徒や若者の孤立に対する支援に取り組む団体などのパネルディスカッションを開催する。合わせて子ども食堂プロジェクトの概要について説明し、ボランティアスタッフを含めた幅広い住民の参画を依頼する。

＜実施状況＞

7月12日(土)、キックオフシンポジウムを開催した。基調講演では、認定NPO法人「全国子ども食堂支援センター むすびえ」のご協力をいただき、近隣自治体の多様な取り組み団体を事例発表いただき、地域の居場所づくりをテーマとしたパネルディスカッションを開催し

た。こども食堂を通じて地域のウェルビーイング実現を目指す意識と気運の醸成に向けたキックオフイベントとなった。

③子ども食堂×〇〇事業／「組み合わせ」食堂

<事業目的>

参加者が一緒にご飯をつくる、ご飯を食べる、だけでなく、農業体験・収穫体験・郷土料理教室の開催などの食育教育などを合わせて開催する。民生児童委員、青年会議所、そば打ち愛好会、高校生ボランティアサークル、町内企業など、多様な団体の知見や協力をいただきながら運営し、多様な関係性の構築に努める。

<実施状況>

中高生のボランティアサークル、食生活改善推進員、地域の農業者などのご協力いただくとともに、収穫した作物を使ったメニューの提供など、地域の住民の皆さんのご支援によりこども食堂を開催できた。

④子どもたちの経験や体験の機会創出事業／「チャレンジ」食堂

<事業目的>

スポーツ・音楽・伝統・文化・芸術など幅広い体験や経験の機会の創出に努め、子ども食堂と組み合わせで開催することで、子どもたちの多様な可能性を育む活動とする。

夏休み等の長期休業期間などを中心として、家庭環境によっては、子どもたちの体験や経験に機会の減少が見られることから、子どもたちに多様な体験の機会を創出する活動について、子ども食堂の開催と合わせて実施する。

<実施状況>

こども食堂の運営については、地域の絵画愛好者や地元のパン屋さん、和菓子職人の方などのご協力をいただき、デッサン教室、パンづくり体験、和菓子づくり体験などを実施できた。また、町内企業の協力をいただき、工場見学と合わせた企画を開催するなど、子どもたちの体験の機会を設け、地域への理解や関係性を広げる事業を展開できた。

4. 事業内容及び実施状況

①地域食堂チョッキ／中部地区まちづくりセンター

実施回数／令和7年8月以降、延べ8回開催

事業内容／流しそうめん体験、いも煮づくり、天体観測とピザづくり、オリジナルサンドイッチづくり、映画鑑賞会、どら焼きづくり、恵方巻づくり

②しろつばき GOGO キッチン／白樺地区まちづくりセンター

実施回数／令和7年8月以降、延べ9回開催

事業内容／カレーづくり、かき氷づくり、たこ焼き交流、ココアラテアート体験、トーストアート体験、和菓子づくり体験、餃子づくり体験、ドーナツづくり体験

③みんなの食堂東部／東部地区まちづくりセンター

実施回数／令和7年8月以降、延べ7回開催

事業内容／トウモロコシ収穫体験、カレーづくり、工場見学、オリジナルハンバーガーづくり、いも煮づくり、ハロウィンペイント体験、グラスケーキづくり、恵方巻づくり

④キッチン西部／西部地区まちづくりセンター

実施回数／令和7年8月以降、延べ7回開催

事業内容／ゆべしづくり、そうめんづくり、和定食づくり、カップケーキづくり、みぞれうどんづくり、そば・うどんづくり、草木染体験

⑤みんなのあふれ食堂／中津川地区まちづくりセンター

実施回数／令和7年7月以降、延べ8回開催

事業内容／カレーづくり、ガレットづくり、いも煮づくり、伝統食体験、中華粥づくり、サンタクロースチャレンジ、牛丼づくり、バレンタインお菓子づくり

5. 事業の効果

地域の多様な世代が気軽に参加し、食を通じて交流できる地域の居場所としての子ども食堂を運営してきた。小学校区単位で設置することで、徒歩や自転車等、子どもたちでも参加しやすい環境として、地域に足を運びやすい居場所があることを目的としている。また、地域住民の支援や協力では、調理へのボランティア参加や食材の提供など、こども食堂の運営を重ねながら支援の輪も少しずつ広がりを見せている。

一部の地区では、来年度小学校の閉校を控えていることから、地域と子どもたちの距離感が広がることを心配する声もあり、こうしたこども食堂の運営を通じて、地域と子どもたちの関係性が継続することを期待する声も多く寄せられた。

単にご飯を食べる場ということを超えて、子どもたちが信頼できる地域の大人たちとつながり、こども食堂が開催されていなくとも、自然と子どもたちが集まる居場所となりつつある。子ども食堂を通じて誰もが気軽に足を運び、自然に交流が生まれる、地域住民の居場所、地域社会全体のウェル・ビーイング環境が実現しつつある。

6. その他（感想等）

とあるこども食堂の開催に際して、障がいをお持ちお子さんのご家庭から、参加しても良いものかとの事前の相談を受けた。もちろん気にせずに親子一緒に参加してほしいとお伝えした。

調理体験もスムーズに進み会食の時間になり、その親御さんとお話することができた。お話を伺いすると、「初めて我が子が自分から参加したいという強い意思表示をした」こと、「このように楽しそうに時間を過ごしているのは久しぶりだった」こと、また、「こうした企画を開催してほしい、こどもと一緒に参加する機会をいただけるイベントや企画があると嬉しい」ということをお話していただきました。

こども食堂の開催を重ねて、こうしたエピソードが少しずつ重なり、地域にみんなの居場所ができていくことを大事にしていきたいと考えています。

7. 写真



地域の先生を迎えたデッサン教室



パンづくり体験

産直のお母さんと地場野菜を使った餃子づくり



地域の和菓子店の協力をいただき和菓子づくり